

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-313006
(P2001-313006A)

(43)公開日 平成13年11月9日(2001.11.9)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
H 0 1 K 7/00		H 0 1 K 7/00	Z 2 H 0 3 8
F 2 1 V 8/00		F 2 1 V 8/00	B
G 0 2 B 6/00	3 2 6	G 0 2 B 6/00	3 2 6

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願2000-169790(P2000-169790)

(22)出願日 平成12年4月29日(2000.4.29)

(71)出願人 500264836

西坂 清孝

大阪府枚方市楠葉朝日3丁目4番12号

(72)発明者 許斐 正明

大阪府枚方市楠葉朝日3丁目4番12号

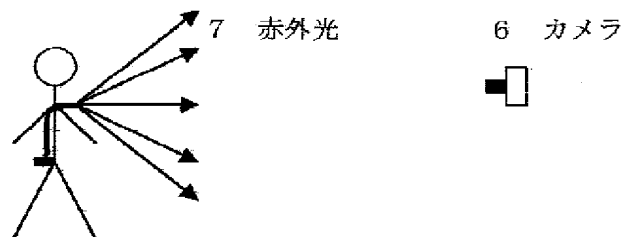
Fターム(参考) 2H038 BA45

(54)【発明の名称】 赤外光による盗撮防止装置

(57)【要約】

【課題】盗撮により肖像権やプライバシーを侵害されたり、本人が知らないうちに盗撮写真や撮ビデオが販売されたりして迷惑をしている人達があり、これを防止する装置が望まれている。

【解決手段】ビデオカメラ、フィルムカメラの受光特性を利用し、人の目には見えないがカメラには見える(受光感度のある)波長の赤外光を照射し、撮影を不可能とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】赤外線発光素子を光源としその光を被写体の外側に照射する盗撮防止装置

【請求項2】赤外線を光ファイバーにて導きその光を被写体の外側に照射する請求項1記載の盗撮防止装置

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】光学分野

【0002】

【従来の技術】盗撮防止を目的とした物はまだ製造、販売されていない。逆に盗撮用の赤外線照射装置は、製造、販売されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】最近盗聴装置、盗撮装置が一般に出回り、夜間の公園や、ファッションホテル、トイレの盗撮ビデオが販売され、盗聴、盗撮がブームになっている感がある。更に盗聴、盗撮された被害者側はその事実すら知らぬ間に、それらが商品化され市場に出てしまうといった由々しき事態に陥っていたりするものである。現在盗聴防止装置は何種類か製品化されており、ある程度の防止はできるようになってきているが、盗撮防止装置はまだ作られていない。芸能人、アナウンサー、プロスポーツ選手など所謂著名人とされる人達はもとより、善良な市民を被写体とした盗撮写真、盗撮ビデオなどが出回ることにより肖像権やプライバシーを侵害され、被害を蒙る人が増加している現状に鑑み、盗撮防止装置の必要性が重要となっている。このため、日常生活に支障なく盗撮が防止できる装置が必要となっている。

【0004】

【課題を解決するための手段】人が見ることのできる光の波長（可視光）は長いほうで780ナノメートルくらいまでである。ところがテレビカメラや写真のフィルムは900～1000ナノメートルの範囲まであり、可視光よりもっと長い赤外波長まで受光感度がある。そこで780ナノメートルより長い波長の光を発光させれば、人には見えないがカメラでは受光反応していることになる。この赤外光をある程度の強さ以上に被写体から外部に照射することにより、盗撮カメラによる撮影に対して被写体を守ることができる。光源に赤外線を発する発

光物を用い、その光を直接、もしくは光ファイバーにて被写体前方まで光を導くことにより、（例えば頭部や胸部）照射方向前方からの撮影に対し照射点を中心としてある半径の範囲を撮影不可能にすることができる。構造は簡単で光源に赤外線発光体（赤外線ランプ、赤外線LEDもしくは赤外線レーザー）を使用しその光を直接照射、もしくはファイバーで赤外光を導き、ファイバーの先端から照射するだけである。ファイバーの開口角に問題があればレンズをつけて調整すればよい。

【0005】

【発明実施の形態】光源として赤外線LED（記号1）か、赤外線レーザー、もしくは赤外線ランプを用いる。光ファイバー（記号4）を使用する場合にはLED、赤外線ランプの光を鏡やレンズ（記号3）にて集光し光ファイバーの入り口に導く。レーザーの場合はそのまま出力光を光ファイバーの入り口に合わせればよい。光ファイバーの出口を被写体の前方に持っていき赤外線（記号7）を照射するようにする。光ファイバーの開口角を40～60度（記号5）にしておく。

【0006】

【発明の効果】今まで盗撮されて肖像権やプライバシーを侵害されたり、盗撮の心配をしていた人々が肖像権を守る事ができるようになり、安心して生活ができるようになる。本装置は光を照射するだけなので、人体や器物を損傷する事もないので安心して使用できる。また、違法な盗撮写真や盗撮ビデオの普及を制限する事ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 発光部の斜視図

【図2】 集光側面図

【図3】 照射部側面図

【図4】 使用例側面図

【符号の説明】

1 LED

2 基板

3 鏡及びレンズ

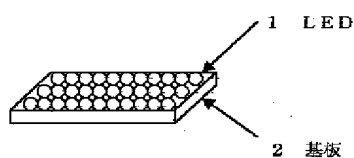
4 光ファイバー

5 光ファイバー開口角

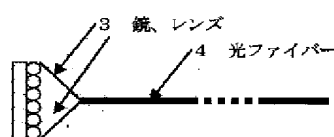
6 カメラ

7 赤外線照射方向

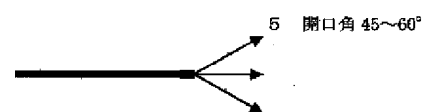
【図1】



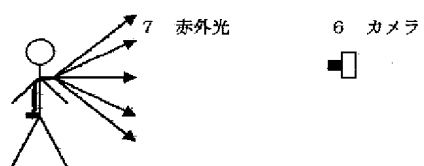
【図2】



【図3】



【図4】



PAT-NO: JP02001313006A
DOCUMENT- JP 2001313006 A
IDENTIFIER:
TITLE: ANTI-PHOTOGRAPH-
STEALING DEVICE BY
INFRA-RED LIGHT
PUBN-DATE: November 9, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MOTOI, MASAOKI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NISHISAKA KIYOTAKA	N/A

APPL-NO: JP2000169790

APPL-DATE: April 29, 2000

INT-CL (IPC): H01K007/00 , F21V008/00 ,
G02B006/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent

intrusion of rights to one's portrait or privacy by the act of stolen photography or prevent photos and videos taken without permission from being sold without one's knowledge.

SOLUTION: A photographing is made impossible by irradiating infra-red rays of the wavelengths invisible to a man but visible to a camera (with photo-sensitivity) by taking advantage of light-receiving characteristics of a video or a film camera.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO